

〔川崎医療福祉学会ニュース〕

## 川崎医療福祉学会 第15回研究集会

日時 平成10年11月25日(水) 14:30~17:00

場所 川崎医療福祉大学・本館5階 5101教室

## 研究発表

1. 河口湖マラソンにおける市民ランナーの現状  
川崎医療福祉大学 健康体育学科 長尾 光城
2. 持久的トレーニングによる循環器系の多様な形態的・機能的適応  
川崎医療福祉大学 健康体育学科 宮地 元彦
3. ハンセン病への理解  
川崎医療福祉大学 医療福祉学科 近藤 功行
4. 条件性ヒフ伝導度反応における複合反応の分析にみる今日的意義について  
川崎医療福祉大学 臨床心理学科 鴨野 元一

## 講演

- 「児童精神科医からライフサイクル精神保健医へ  
——今 あらためて母性と父性の意味を考える——」  
川崎医療福祉大学 医療福祉学科 佐々木正美

## 研究発表要旨

## 河口湖マラソンにおける市民ランナーの現状

河口湖マラソンはわが国で、一般市民が参加できるフルマラソン大会で最大規模である。そこで、救護室からみたランナーの現状を調査研究した。救護室での訴えは下腿三頭筋、膝関節、大腿筋群、足部水泡におよんだ。障害を持ちな

川崎医療福祉大学 健康体育学科 長尾 光城  
から出場しているランナーも数多くみられた。フルマラソンを完走するためには、走行距離、練習場所、自分に適したシューズの選択などの問題点が指摘された。障害予防のための対策の重要性が示唆された。

## 持久的トレーニングによる循環器系の多様な形態的・機能的適応

持久的トレーニングにより生じる循環器系の多様な形態的・機能的適応について検討するため、5つの実験を遂行した。実験1, 2では、持久的トレーニングが、運動中の心拍出量増大に対応して、左室形態の変化と拡張機能の亢進を生じていることが示された。実験3, 4では、

川崎医療福祉大学 健康体育学科 宮地 元彦  
持久的トレーニングによって大動脈や大静脈の横断面積が増加すること、それに伴って運動中の心拍出量増大による血圧や大動脈血流速度の上昇の程度が低下することが示された。実験5では10週間の持久的トレーニングによって、肺胞—手細血管閥門厚が薄くなり、それを構成す

る上皮・中隔・血管内皮の3要素の中の血管内皮の厚さのみが減少した。本研究では、持久的トレーニングにより循環器系各器官に多様な形態的・機能的変化が生じること、及びそれらの

適応は活動筋への酸素運搬機能を向上させるために極めて合目的であること、かつ、個々の適応が相互に関連していることが示唆された。

#### ハンセン病への理解

ハンセン病を題材にした調査から、過去の何らかの手段によって得た知識に対し、現在の社会的認識からその修正の必要性を判断し、必要とされる修正が受け入れられる手段および方法について検討した。「ハンセン病」という言葉を

川崎医療福祉大学 医療福祉学科 近藤 功行  
聞いての印象512件を、(1)伝染性=80件、(2)患者の症状=51件、(3)病気の現状=74件、(4)感想(病気への)=101件、(5)差別(患者への)=35件、(6)隔離(患者の)=65件、(7)その他=106件、の視点で分類し解読した。

#### 条件性ヒフ伝導度反応における複合反応の分析にみる今日的意義について

近年、古典的条件づけの研究は、刺激間の「接近性」からそれらの「随伴性」へと、認知的解釈がその主流をしめている。ヒフ伝導度反応の延滞条件づけ事態でみられる複合反応の分析は、無条件刺激を電撃呈示から反応時間課題にかえ

川崎医療福祉大学 臨床心理学科 鴨野 元一  
ることによって、刺激の随伴性を生理的次元でとらえつつ、反応時間の遅速と随伴性にかかわる認知要因を逐次的(試行毎)に取り扱うことを可能にしてくれる。今回は、その可能性を提言するものである。

## 講演

### 児童精神科医からライフサイクル精神保健医へ —— 今 あらためて母性と父性の意味を考える ——

乳幼児期は人格の基礎づくりに極めて大切で、仲間と希望・知性・体験を共有し、ライフサイクルを健康に生きる上で、エリクソンのモデルは大きな示唆を与えている。発達段階には一つ一つ越える課題があり、順序の間違いが少年犯罪の背景に見られる。無条件の絶対的な愛からなる母なるものを十分与えられないと、規則・義務・役割等の社会性を教える父なるものは通用しない。これは子どもの成長期のみならず、教育の場でも同様に、自分を信じ承認してくれる教師や友人に出会うことによって、真に自信と自尊の感情が育つ。安価で利己的なプライド

川崎医療福祉大学 医療福祉学科 佐々木正美  
ではなく、真の自尊心が育てられなければ、規律を遵守し責任を遂行する社会的人格は形成されない。だから母なるものが十分に機能した後には父なるものが機能して、はじめて子どもは社会人としての人格を得ることになる。長い年月の自由、平和、豊かさの中で、私たちは自己の欲望を肥大させる一途で自己愛的になり、母性的な他者への愛や受容性を失い、その影響が青少年に及んでいる。父性的なものが青少年の教育にはたらく以前のところで、わが国の青少年の健全育成は苦悩している。